

潜水士試験はこの1冊でまるわかり

せん すい し
潜水士試験

まるわかりテキスト

令和6年版 & 問題集



🔄 はじめに

本書は、(公財)安全衛生技術試験協会が公表している潜水士試験を令和5年度から平成30年度までの6年間、計12回分程度の問題の内容を実際の試験科目と同様に大きく4つの章に分け、更に細かく項目を分けて収録しています。

第1章 潜水業務	8項目
第2章 送気、潜降及び浮上	4項目
第3章 高気圧障害	7項目
第4章 関係法令*	10項目

※本書の関係法令の内容は、令和5年5月の法令等をもとに編集しています。

各項目のはじめに、その項目に分類される出題問題を解くために知っておくべき必要最小限の内容をテキストとしてまとめており、テキストの後には内容の確認のため「🧐ここまでの確認!! 一問一答」や「✅Check! ここで計算問題をチェック」を収録しています。更に、各章の最後には総仕上げとして、令和6年4月公表問題から過去5回分程度の過去問題「🔍過去問題で総仕上げ」を収録しています。そして、過去問題の後には解答・解説として、その問題文がなぜ誤っているのか、また該当する法令等をまとめました。

過去問題文には、[R6.4]などと記載しています。これは、令和6年4月に公表された問題を表しています。[R4.10/R3.4]とあるのは、令和4年10月公表問題と令和3年4月公表問題が同じ問題・選択肢であることを表しています。また、[R3.10改]とあるのは、公表問題の内容をチェックし、問題が不成立になる場合に整合性をとるため、手を加えた問題を表しています。

各章の最後には「📖覚えておこう」として、赤シートを活用しやすく、短時間で要点を確認できる一覧を掲載しています。



本書は項目ごとにまとめているため、頭の中で整理しやすく「覚える」→「問題を解く」→「正解・解説を確認する」→「覚える」を繰り返すことで、意識せずに覚えて、解くことができます。また、何度もチャレンジすることで、試験合格が可能となります。

各項目等には、^{学習チェック}を用意しています。項目内容や問題を理解した場合にはチェックしたり、何巡目であるかの記録など用途はいろいろありますので、使いやすい方法でご活用ください。



令和6年6月 公論出版編集部

もくじ



第1章 潜水業務

1 圧力と浮力	8
2 気体に関する法則	13
3 気体の特性と性質	21
4 水中における光や音	24
5 潜水の種類及び方式	27
6 潜水業務の危険性	30
7 潜水事故	33
8 特殊な環境下の潜水	37
 過去問題で総仕上げ	
問題編	39
解答／解説編	58
 覚えておこう	69

第2章 送気、潜降及び浮上

1 送気式潜水における送気	78
2 潜水の入水・潜降・浮上	83
3 ZH-L16モデルに基づく減圧方法	90
4 潜水業務に使用する器具	94
 過去問題で総仕上げ	
問題編	102
解答／解説編	128
 覚えておこう	139

第3章 高気圧障害

1	人体の肺換気機能	150
2	人体の循環器系	153
3	人体の神経系	155
4	人体に及ぼす水温の作用及び体温	158
5	気圧変化による健康障害	160
6	潜水作業者の健康管理	169
7	潜水業務に必要な救急処置	171
	過去問題で総仕上げ	
	問題編	176
	解答／解説編	198
	覚えておこう	207

第4章 関係法令

1	潜水業務の設備	218
2	特別の教育	222
3	潜水作業業務の管理	226
4	潜水業務に係る潜降、浮上等	228
5	設備等の点検及び修理	231
6	連絡員／潜水業務における携行物等	233
7	健康診断	235
8	再圧室	238
9	免許証	241
10	譲渡等の制限等	245
	過去問題で総仕上げ	
	問題編	246
	解答／解説編	270
	覚えておこう	284
	索引	291

第1章

潜水業務



- 1 圧力と浮力
- 2 気体に関する法則
- 3 気体の特性と性質
- 4 水中における光や音
- 5 潜水の種類及び方式
- 6 潜水業務の危険性
- 7 潜水事故
- 8 特殊な環境下の潜水



1 圧力と浮力

学習チェック



➡ 圧力と気圧

① 圧力

圧力とは、単位面積当たりの面に**垂直方向**に作用する力で、単位は**Pa**（パスカル）になります。

② 気圧

気圧とは、気体の**圧力**のことをいいます。

単に気圧という場合は、大気圧のことを指す場合があります。

1気圧は国際単位系（SI単位）で表すと、**約101.3kPa**又は**約0.1013MPa**となりますが、潜水士試験では、1気圧=**0.1MPa**で考えます。

1気圧は次のような関係があります。

1気圧 = **1 atm**（アトム） = **1 bar**（パール） = **0.1MPa** = 1 kg/cm^2

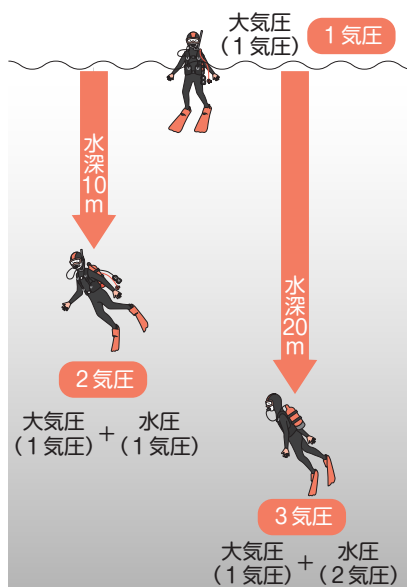
➡ 水中での圧力

水中では大気圧に加え水圧が加わります。

水深が10m深くなるごとに**1気圧(0.1MPa)**ずつ**増加**します。水深10mでは、大気圧1気圧+水圧1気圧で**2気圧**、水深20mでは、大気圧1気圧+水圧2気圧で**3気圧**になります。よって、深く潜水するほど気圧が**大き**くなっていきます。また、「**0.1MPa × 水深(m) + 1**」によっても求めることができます。

水深が同じであれば、潜水者の受ける圧力は海水中より淡水中が**わずかに小さ**くなります。これは海水の密度(1.025g/cm^3)が水の密度(1g/cm^3)に比べ少し大きいからです。

● 水深と気圧





ここまでの確認!! 一問一答

- 問1 学習チェック 圧力は、単位面積当たりの面に垂直方向に作用する力である。
- 問2 学習チェック 1気圧は国際単位系（SI単位）で表すと、約101.3kPa又は約0.1013MPaとなる。
- 問3 学習チェック ゲージ圧力は、絶対圧力から大気圧を引いたものである。
- 問4 学習チェック 水深20mで潜水時に受ける圧力は、大気圧と水圧の和であり、絶対圧力で0.2MPaとなる。
- 問5 学習チェック 水中にある物体は、これと同体積の水の重量に等しい浮力を受ける。
- 問6 学習チェック 海水中にある物体が受ける浮力は、同一の物体が淡水中で受ける浮力より小さい。
- 問7 学習チェック 圧縮性のない物体は水深によって浮力は変化しないが、圧縮性のある物体は水深が深くなるほど浮力も大きくなる。
- 問8 学習チェック 同じ体積の物体であっても、重心の低い形の物体は、重心の高い形の物体よりも浮力が大きい。

解答1 ○

解答2 ○

解答3 ○

解答4 × 水深20mの絶対圧力は、水圧（ゲージ圧）0.2MPaに大気圧0.1MPaを加えて**0.3MPa**（0.2MPa+0.1MPa）になる。

解答5 ○

解答6 × 海水中のほうがわずかに密度が大きいため、淡水中よりも浮力が**大**きくなる。

解答7 × 圧縮性のある物体は水深が深くなるほど体積が**小さ**くなり、浮力も**小さ**くなる。

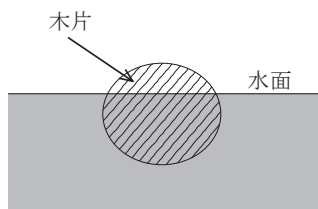
解答8 × 浮力は体積によって変化するため、重心の違いでは**変化**しない。

Check! ここで計算問題をチェック

問1 学習チェック

体積 600cm^3 で質量が 400g の木片が右の図のように水面に浮いている。この木片の水面下にある部分の体積は約何 cm^3 か。

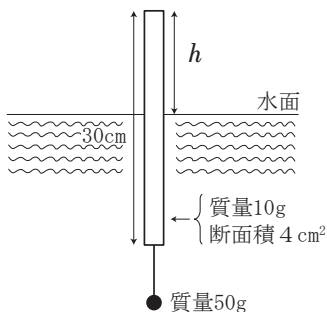
- (1) 300cm^3 (2) 325cm^3
 (3) 350cm^3 (4) 375cm^3
 (5) 400cm^3



問2 学習チェック

右の図のように、質量 50g のおもりを糸でつるした、質量 10g 、断面積 4cm^2 、長さ 30cm の細長い円柱状の浮きが、上端を水面上に出して静止している。この浮きの上端の水面からの高さ h は何 cm か。ただし、糸の質量及び体積並びにおもりの体積は無視できるものとする。

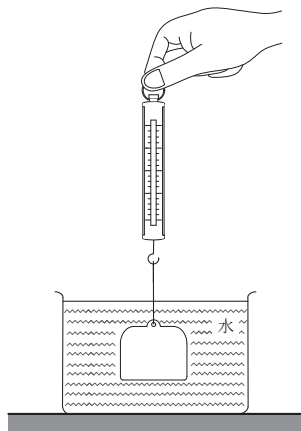
- (1) 10cm (2) 12cm
 (3) 15cm (4) 18cm
 (5) 20cm



問3 学習チェック

体積 50cm^3 で質量が 400g のおもりを右の図のようにばね秤に糸でつるし、水に浸けたとき、ばね秤が示す数値に最も近いものは次のうちどれか。

- (1) 300g
 (2) 325g
 (3) 350g
 (4) 375g
 (5) 400g



解答1 (5)

木片は、上端を水面上に出して静止しているため、木片の質量は浮力と同じになる。木片の重さは400g、木片の浮力も400gとなる。

次に水面下の木片の体積を求める。

$$\begin{aligned}\text{水面下の木片の体積} &= \frac{\text{浮力}}{\text{水の密度}} \\ &= \frac{400\text{g}}{1\text{g/cm}^3} = \mathbf{400\text{cm}^3}\end{aligned}$$

解答2 (3)

浮きは、上端を水面上に出して静止しているため、浮きの質量は浮力と同じになる。したがって、浮きの浮力は、60g（おもりの質量50g＋浮きの質量10g）となる。

水面下にある浮きの体積を求める。

$$\text{水面下にある浮きの体積} = \frac{\text{浮力}}{\text{水の密度}} = \frac{60\text{g}}{1\text{g/cm}^3} = 60\text{cm}^3$$

水面下にある浮きの体積が 60cm^3 で、断面積が 4cm^2 のため、水面下の浮きの長さは次のとおりになる。

$$60\text{cm}^3 \div 4\text{cm}^2 = 15\text{cm}$$

よって、浮きの上端の水面からの高さは次のとおりになる。

$$\begin{aligned}\text{浮きの上端の水面からの高さ (h)} &= \text{浮きの全長} - \text{水面下の浮きの長さ} \\ &= 30\text{cm} - 15\text{cm} = \mathbf{15\text{cm}}\end{aligned}$$

解答3 (3)

流体中の物体は、その物体が押しつけている流体の質量が及ぼす重力と同じ大きさで上向きの浮力を受けるため、体積 50cm^3 のおもりを水の中に入れると次のとおりになる。

$$\text{体積}50\text{cm}^3 \times \text{水の密度 } 1\text{g/cm}^3 = 50\text{g}$$

したがって、浮力も50gとなり、ばね秤が示す数値は次のとおりになる。

$$\text{おもりの重量} - \text{浮力} = 400\text{g} - 50\text{g} = \mathbf{350\text{g}}$$



過去問題で総仕上げ

問題【潜水業務編】

1 圧力と浮力

(テキスト⇒8P・解説/解答⇒58P)

学習チェック



第1章

潜水業務

問1 学習チェック

圧力及びその単位に関し、誤っているものは次のうちどれか。[R6. 4]

- (1) $1 \text{ Pa} = 1 \text{ N/m}^2$ である。
- (2) $1 \text{ kPa} = 10 \text{ hPa}$ である。
- (3) $1 \text{ kPa} = 98.0665 \text{ kgf/cm}^2$ である。
- (4) $1 \text{ bar} = 0.1 \text{ MPa}$ である。
- (5) $1 \text{ atm} = 101325 \text{ Pa}$ である。

問2 学習チェック

圧力に関し、正しいものは次のうちどれか。[R5. 10]

- (1) 気体では、温度が一定の場合、圧力 P と体積 V について $\frac{P}{V} = (\text{一定})$ の関係が成り立つ。
- (2) 気体では、圧力が一定の場合、体積 V と絶対温度 T について $V \cdot T = (\text{一定})$ の関係が成り立つ。
- (3) 密閉容器内に満たされた静止流体中の任意の点に加えた圧力は、その圧力の方向にだけ伝達される。
- (4) ゲージ圧力は、絶対圧力に大気圧を加えたものである。
- (5) 圧力 1 bar を SI 単位に換算すると 0.1 MPa となる。

1 圧力と浮力 (テキスト⇒8P・問題⇒39P)

解説1 解答(3)

(3) 正しくは、 $1\text{ kPa} = 0.0101972\text{ kgf/cm}^2$ である。

解説2 解答(5)

(1) 気体では、温度が一定の場合、圧力Pと体積Vについて $V \cdot T = (\text{一定})$ の関係が成り立つ。

(2) 気体では、圧力が一定の場合、体積Vと絶対温度Tについて $\frac{V}{T} = (\text{一定})$ の関係が成り立つ。

(3) 密閉容器内に満たされた静止流体中の任意の点に加えた圧力は、**同じ強さ**で流体の**あらゆる部分**に伝わる。

(4) ゲージ圧力は、**絶対圧力から大気圧を引いたもの**である。

解説3 解答(4)

(4) 密閉容器内に満たされた静止流体中の任意の点に加えた圧力は、**同じ強さ**で流体の**あらゆる部分**に伝わる。

解説4 解答(4)

1気圧は次のような関係がある。

1気圧 = 1 atm (アトム) = 1 bar (バール) = 0.1MPa。

圧力計が50barの場合、MPaに換算すると**5MPa**になり、atmに換算すると、おおむね**50atm**になる。

解説5 解答(4)

(4) 圧縮性のある物体は、水深が深くなるほど体積が**小さく**なり、浮力も**小さく**なる。



覚えておこう 【潜水業務編】

→ 圧力と気圧

圧力	単位面積当たりの面に【垂直方向】に作用する力
気圧	国際単位系【SI単位】では約【101.3】kPa又は約【0.1013】MPa
	1気圧 = 1【atm】 = 1【bar】 = 0.1【MPa】 = 1【kg/cm ² 】

→ 水中での圧力

水深が【10】m深くなるごとに【1】気圧ずつ増加
水深が同じ場合、受ける圧力は海水中より淡水中がわずかに【小さい】

→ 絶対圧力とゲージ圧

絶対圧力	絶対真空を基準とした圧力で【大気圧】と【ゲージ圧】の和でもある
ゲージ圧力	【絶対圧力】から【大気圧】を引いたもの
	潜水業務において使用される【圧力計】には、ゲージ圧力で表示

→ 浮力

水中にある物体が、水から受ける【上向き】の力
水中にある物体は、これと【同体積】の【水の質量（重量）】に等しい浮力を受ける
淡水中と海水中で同一の物体が受ける浮力は、【淡水中】に比べ、わずかに密度が大きい【海水中】の方が浮力は大きい
圧縮性のある物体は水深が深くなるほど体積が【小さく】なり、浮力は体積に比例するため、浮力は【小さい】

→ 気体に関する法則

ボイルの法則	温度が一定のとき、気体の体積（V）は圧力（P）に【反比例】する
シャルルの法則	気体の圧力を一定にしたとき、体積（V）と絶対温度（T）は【比例】する
ボイル・シャルルの法則	一定量の気体の体積（V）は気体の圧力（P）に【反比例】し、絶対温度（T）に【比例】する
ダルトンの法則	2種類以上の気体により構成される混合気体の【全圧】は、それぞれの気体の【分圧】の和に等しい

第2章

送気、潜降及び浮上



- 1 送気式潜水における送気
- 2 潜水の入水・潜降・浮上
- 3 ZH-L16モデルに基づく減圧方法
- 4 潜水業務に使用する器具



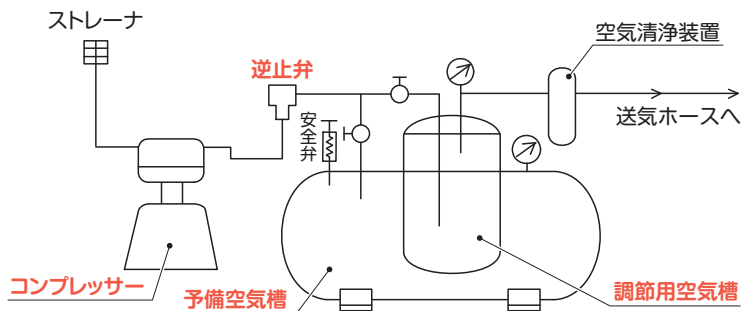
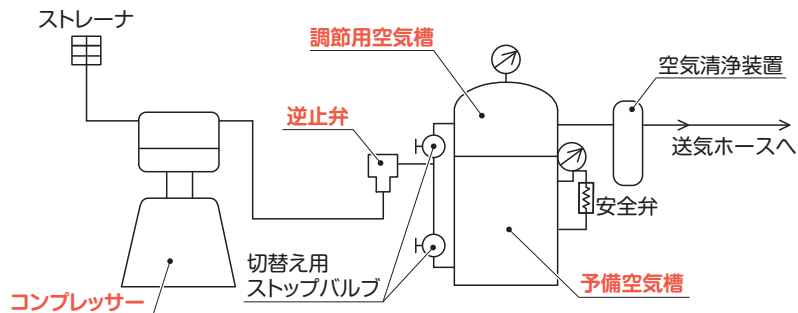
1 送気式潜水における送気

学習チェック

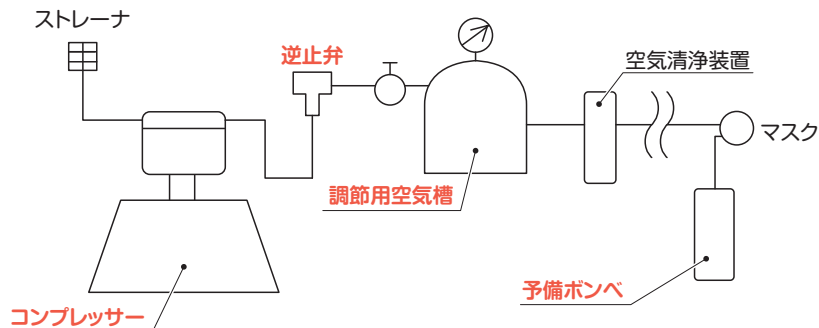


② コンプレッサーによる送気系統

● ヘルメット式潜水の送気系統



● 全面マスク式潜水の送気系統



⑥流量計

流量計は、**空気清浄装置**と**送気ホース**との間に取り付けて、潜水作業者に適量の空気が送気されていることを確認する計器で、特定の**送気圧力**による流量が目盛られていて、その圧力以外で送気するには**換算が必要**となります。



ここまでの確認!! 一問一答

- 問1 学習チェック ストレーナーは、コンプレッサーに吸入される外気をろ過し、ゴミなどの侵入を防ぐための装置である。
-
- 問2 学習チェック コンプレッサーは、原動機で駆動され、ピストンを往復させてシリンダー内の空気を圧縮する構造となっている。
-
- 問3 学習チェック コンプレッサーには、固定式と移動式があるが、固定式は潜水作業船に設置される場合が多い。
-
- 問4 学習チェック コンプレッサーの圧縮効率は、圧力の上昇に伴い低下する。
-
- 問5 学習チェック 潜水業務終了後、調節用空気槽は、内部に0.1MPa（ゲージ圧力）程度の空気を残すようにしておく。
-
- 問6 学習チェック 潜水前には、予備空気槽の圧力がその日の最高潜水深度の圧力の1.5倍以上となっていることを確認する。
-
- 問7 学習チェック フェルトを使用した空気清浄装置は、潜水作業者に送る圧縮空気に含まれる水分と油分のほか、二酸化炭素と一酸化炭素を除去する。
-
- 問8 学習チェック 送気ホースは、始業前に、ホースの最先端を閉じ、最大使用圧力以上の圧力をかけて、耐圧性と空気漏れの有無を点検・確認する。
-
- 問9 学習チェック 流量計は、コンプレッサーと調節用空気槽の間に取り付けて、潜水作業者に送られる空気量を測る計器である。
-
- 問10 学習チェック 流量計には、特定の送気圧力による流量が目盛られており、その圧力以外で送気するには換算が必要である。
-



過去問題で総仕上げ

問題【送気、潜降及び浮上編】

1 送気式潜水における送気

(テキスト⇒78P・解説/解答⇒128P)

学習チェック



問1 学習チェック



送気式潜水に使用する設備又は器具に関し、正しいものは次のうちどれか。

[R6. 4]

- (1) 全面マスク式潜水では、通常、送気ホースは、呼び径が13mmのものが使われている。
- (2) ヘルメット式潜水では、呼気がヘルメット内に吐き出されるため、ヘルメット内の二酸化炭素濃度が有毒なレベルに達しないよう、できるだけ高い圧力で送気する。
- (3) 流量計には、特定の送気圧力による流量が目盛られており、その圧力以外で送気する場合は換算が必要である。
- (4) フェルトを使用した空気清浄装置は、潜水者に送る圧縮空気に含まれる水分と油分のほか、二酸化炭素と一酸化炭素を除去する。
- (5) 終業後、調節用空気槽は、内部に0.1MPa（ゲージ圧力）程度の空気を残すようにしておく。

問2 学習チェック



送気式潜水に使用する設備又は器具に関し、誤っているものは次のうちどれか。

[R5. 10]

- (1) 始業前に、空気槽にたまった凝結水、機械油などは、ドレーンコックを開放して放出する。
- (2) 始業前に、空気槽の逆止弁、安全弁、ストップバルブなどを点検し、空気漏れがないことを確認する。
- (3) 潜水前には、予備空気槽の圧力がその日の最高潜水深度の圧力の1.5倍以上となっていることを確認する。
- (4) 終業後、調節用空気槽は、ドレーンを排出し、内部に0.1MPa程度の空気を残すようにしておく。

解答／解説【送気、潜降及び浮上編】

1 送気式潜水における送気 (テキスト⇒78P・問題⇒102P)

解説1 解答 (3)

- (1) 全面マスク式潜水では、通常、送気ホースは、呼び径が **8 mm** のものが使われている。
- (2) ヘルメット式潜水では、高い圧力で送気すると、腰バルブのわずかな操作でも大量の空気が送り込まれ、**吹き上げ事故**の原因となるため、送気圧力は常に**適正に調整**する。また、ヘルメット内の二酸化炭素濃度が有毒レベルに達しないようにするには、十分な送気を行う。
- (4) フェルトを使用した空気清浄装置は、潜水者に送る圧縮空気から**臭気や水分と油分**を取り除くもので、二酸化炭素や一酸化炭素の**除去はできない**。
- (5) 終業後、調節用空気槽は、空気槽内部に残った圧縮空気を**ドレーンコック**から**排出**させておく。

解説2 解答 (4)

- (4) 終業後、調節用空気槽は、空気層内部に残った圧縮空気をドレーンコックから排出させるため、内部に0.1MPa程度の空気を残す**必要はない**。

解説3 解答 (5)

- (5) 終業後、調節用空気槽は、空気槽内部に残った圧縮空気を**ドレーンコック**から**排出**させておく。

解説4 解答 (3)

- (1) 全面マスク式潜水では、通常、送気ホースは、呼び径が **8 mm** のものが使われている。
- (2) コンプレッサーの圧縮効率は、圧力の上昇に伴い**低下する**。
- (4) フェルトを使用した空気清浄装置は、潜水者に送る圧縮空気から**臭気や水分と油分**を取り除くもので、二酸化炭素や一酸化炭素の**除去はできない**。
- (5) 終業後、調節用空気槽は、空気槽内部に残った圧縮空気を**ドレーンコック**から**排出**させておく。

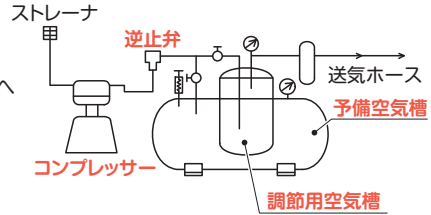
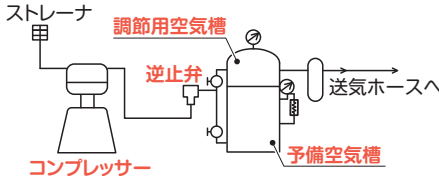


覚えておこう

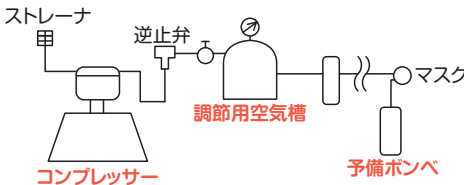
【送気、潜降及び浮上編】

➡ コンプレッサーによる送気系統

- ヘルメット式潜水の送気系統



- 全面マスク式潜水の送気系統



➡ 送気式潜水に使用する設備又は器具

コンプレッサー	原動機で駆動され、【ピストン】を往復させて【シリンダー】内の空気を圧縮する構造
	圧縮効率は、圧力の上昇に伴い【低下】する
	空気取入口は、常に新鮮な空気を取り入れるため機関室の【外】に設置
	機能・性能を保持するためには、原動機とコンプレッサーとの伝動部分をはじめ、【冷却装置】、【圧縮部】、【潤滑油部】などについて保守・点検の必要がある
	固定式と移動式があり、【固定式】は潜水作業船に設置される場合が多い
	大出力化した原動機（主機）を備える潜水作業船は、コンプレッサー専用の原動機（補機）を設置して駆動するものが【多い】
空気槽	調節用空気槽は、送気に含まれる水分や油分を【分離】する機能がある

第3章

高気圧障害



- 1 人体の肺換気機能
- 2 人体の循環器系
- 3 人体の神経系
- 4 人体に及ぼす水温の作用及び体温
- 5 気圧変化による健康障害
- 6 潜水作業者の健康管理
- 7 潜水業務に必要な救急処置



1 人体の肺換気機能

学習チェック



肺換気機能

①呼吸運動

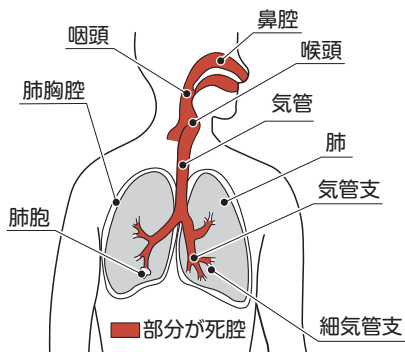
肺は、フイゴのように膨らんだり縮んだりして空気を出し入れしていますが、肺自体には**運動能力（膨らむ力）**はなく、主として肋間筋、横隔膜などの**呼吸筋**によって胸郭内容積を周期的に**増減**し、それに伴って肺を**伸縮**させています。これを**呼吸運動**といいます。

潜水中は、呼吸ガスの密度が**高くなり**呼吸抵抗が**増す**ので、呼吸運動によって気道内を移動できる呼吸ガスの量は、深度が**増す**に従って**減少**します。

②ガス交換

肺呼吸は、肺内に吸い込んだ空気中の**酸素**を血液中に取り入れ、血液中の**二酸化炭素**を排出する**ガス交換**です。鼻や口から吸い込まれた呼吸ガスは、**気管→気管支→細気管支→呼吸細気管支**の順で通過して、**肺胞**に至ります。

●呼吸器の構造と死腔



ガス交換は、**肺胞**及び**呼吸細気管支**で行われ、そこから口側までの空間はガス交換に直接**関与していない**ので、この空間を**死腔**（くう）といいます。死腔が大きいほど、**酸素不足**、**二酸化炭素蓄積**が起こりやすく、潜水呼吸器を装着するとガス交換に関与しない空間が増えるため、死腔は**増加**します。また、肺胞内の空気と肺胞を取り巻く毛細血管中の血液との間で行われるガス交換を**外呼吸**といいます。

胸郭内容積が増し、内圧が低くなるにつれ、鼻腔、気管などの気道を経て肺内へ流れ込む空気が**吸気**です。逆に、内圧が高くなると肺は収縮して肺内の空気は体外に排出されます。これが**呼気**になります。

通常の呼吸の場合の呼気には、酸素が**約16%**、二酸化炭素が**約4%**（通常の空気中では0.04%程度）含まれます。

身体活動時には、血液中の二酸化炭素分圧の**上昇**により呼吸中枢が刺激され、1回換気量及び呼吸数が**増加**します。

③胸膜腔

肺の表面と胸郭内側の面は、**胸膜**で覆われており、両者間の空間を**胸膜腔**といいます。胸膜腔は、通常、密閉状態になっているが、胸膜腔に気体が侵入し、**気胸**（何らかの原因により肺から空気が漏れること）を生じると、胸郭が**広がっても肺が膨らまなくなります**。

④肺気腫

肺気腫とは、主に**たばこ**の煙が原因となって、酸素と二酸化炭素の交換が行われる**肺胞**に**炎症**が生じ、組織が**破壊**されて肺の機能が**低下**する病気です。

⑤気胸

気胸とは、胸膜腔に空気が侵入し胸郭が広がっても**肺が広がらない状態**をいいます。突然の胸痛で発症し、呼吸困難を伴うこともあり、潜水現場で発生することもあります。軽症であれば安静を保つことで自然治癒を望むこともできます。



ここまでの確認!! 一問一答

問1 学習チェック 肺は、肺胞と胸膜の協調運動によって膨らんだり縮んだりして、空気を出し入れしている。

問2 学習チェック 肺は、筋肉活動による胸郭の拡張に伴って膨らむ。

問3 学習チェック 鼻や口から吸い込まれた呼吸ガスは、気管→気管支→細気管支→呼吸細気管支の順に通過して、肺胞に至る。

問4 学習チェック 呼吸の場合の呼気には、酸素が約16%、二酸化炭素が約4%含まれる。

問5 学習チェック 肺呼吸は、空気中の酸素を取り入れ、血液中の二酸化炭素を排出するガス交換である。



過去問題で総仕上げ

問題【高気圧障害編】

1 人体の肺換気機能

(テキスト⇒150P・解説/解答⇒198P)

学習チェック



問1 学習チェック



肺換気機能に関し、誤っているものは次のうちどれか。[R6. 4]

- (1) 肺呼吸は、空気中の酸素を取り入れ、血液中の二酸化炭素を排出するガス交換である。
- (2) ガス交換は、肺胞及び呼吸細気管支で行われ、そこから口側の空間は、ガス交換には直接は関与していない。
- (3) ガス交換に関与しない空間を死腔くうというが、潜水呼吸器を装着すれば死腔は増加する。
- (4) 死腔が小さいほど、酸素不足、二酸化炭素蓄積が起こりやすい。
- (5) 潜水中では、呼吸ガスの密度が高くなり呼吸抵抗が増すので、呼吸運動によって気道内を移動できる呼吸ガスの量は深度が増すに従って減少する。

問2 学習チェック



肺及び呼吸ガスに関し、誤っているものは次のうちどれか。[R5. 10]

- (1) 肺は、膨らんだり縮んだりして空気を出し入れしているが、肺自体には膨らむ力はない。
- (2) 肺の表面と胸郭内側の面は、胸膜で覆われており、両者間の空間を胸膜腔くうという。
- (3) 肺呼吸は、肺内に吸い込んだ空気中の酸素を血液中に取り入れ、血液中の二酸化炭素を排出するガス交換である。
- (4) ガス交換は、肺胞及び呼吸細気管支で行われ、そこから口側の空間は、ガス交換には直接は関与していない。
- (5) 二酸化炭素濃度は、通常の空気中では0.04%程度であるが、呼気中では0.4%前後となる。

1 人体の肺換気機能 (テキスト⇒150P・問題⇒176P)

解説 1 解答 (4)

(4) 死腔が**大きい**ほど、酸素不足、二酸化炭素蓄積が起こりやすい。

解説 2 解答 (5)

(5) 二酸化炭素濃度は、通常の空気中では0.04%程度であるが、呼気中では**4%**前後となる。

解説 3 解答 (5)

(5) 設問の内容は**気胸**。空気塞栓症は、急浮上などによる肺の**過膨張**が原因となって発症する。空気塞栓症⇒161P参照。

解説 4 解答 (4)

(4) 設問の内容は**気胸**。肺気腫は、肺胞の組織が破壊され、**肺の機能が低下する**病気である。

解説 5 解答 (5)

(5) 身体活動時には、血液中の**二酸化炭素**分圧の上昇により呼吸中枢が刺激され、1回換気量及び呼吸数が増加する。

2 人体の循環器系 (テキスト⇒153P・問題⇒178P)

解説 1 解答 (3)

(3) 心臓は左右の心室及び心房、すなわち四つの部屋に分かれており、血液は**左心室**から大動脈を通して体全体に送り出される。



覚えておこう

【高気圧障害編】

→ 肺換気機能

肺自体には【運動能力】（膨らむ力）はなく、主として肋間筋、横隔膜などの【呼吸筋】によって胸郭内容積を周期的に【増減】し、それに伴って肺を【伸縮】させることにより行われる
潜水中では呼吸ガスの密度が【高く】なり呼吸抵抗が【増す】ので、呼吸運動によって気道内を移動できる呼吸ガスの量は深度が【増す】に従って【減少】する
肺呼吸は、肺内に吸い込んだ空気中の【酸素】を血液中に取り入れ、血液中の【二酸化炭素】を排出する【ガス交換】をいう
ガス交換は、【肺胞】及び【呼吸細気管支】で行われる
ガス交換に関与しない空間を【死腔】という
死腔が大きいほど、【酸素】不足、【二酸化炭素】蓄積が起こりやすい
潜水呼吸器を装着すると死腔は【増加】する
肺胞内の空気と肺胞を取り巻く毛細血管中の血液との間で行われるガス交換を【外呼吸】という
胸郭内容積が増し、内圧が低くなるにつれ、鼻腔、気管などの気道を経て肺内へ流れ込む空気を【吸気】という
内圧が高くなると肺は収縮して、肺内の空気は体外に排出されるものを【呼気】という
通常の呼吸の場合の呼気には、酸素が約【16】%、二酸化炭素が約【4】%（通常の空気中では0.04%程度）含まれる
身体活動時には、血液中の二酸化炭素分圧の【上昇】により呼吸中枢が刺激され、1回換気量及び呼吸数が【増加】する
肺の表面と胸郭内側の面は、【胸膜】で覆われており、両者間の空間を【胸膜腔】という
胸膜腔は、通常、密閉状態になっているが、胸膜腔に気体が侵入し、【気胸】を生じると、胸郭が【広がって】も肺が【膨らまない】

第4章

関係法令



- 1 潜水業務の設備
- 2 特別の教育
- 3 潜水作業業務の管理
- 4 潜水業務に係る潜降、浮上等
- 5 設備等の点検及び修理
- 6 連絡員/潜水業務における携行物等
- 7 健康診断
- 8 再圧室
- 9 免許証
- 10 譲渡等の制限等



1 潜水業務の設備

学習チェック



➡ 空気槽【高圧則第8条】

1. 事業者は、潜水業務従事者（潜水作業者及び潜水業務請負人等※（労働者を除く。）をいう。）に、空気圧縮機により送気するときは、当該空気圧縮機による送気を受ける**潜水業務従事者ごとに**、送気を調節するための**空気槽及び予備空気槽**を設けなければならない。

※潜水業務請負人等とは、潜水業務の一部を請け負わせた場合における潜水業務に従事する者をいいます。

2. 予備空気槽は、次に定めるところに適合するものでなければならない。

①予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度における圧力の**1.5倍**以上であること。

②予備空気槽の内容積は、**厚生労働大臣が定める方法**により計算した値以上であること。

▶高気圧作業安全衛生規則第8条第2項等の規定に基づく厚生労働大臣が定める方法等（告示）

第1条（予備空気槽の内容積の計算方法）

1. 高圧則第8条第2項の**厚生労働大臣が定める方法**は、次の各号に掲げる場合に応じ、それぞれ当該各号に定める式により計算する方法とする。

①潜水作業者に 圧力調整器 を使用させる場合（全面マスク等）	$V = \frac{40 (0.03D + 0.4)}{P}$
②前号に掲げる場合以外の場合（ヘルメット式）	$V = \frac{60 (0.03D + 0.4)}{P}$

V：予備空気槽の内容積（単位：L）

D：最高の**潜水深度**（単位：m）

P：予備空気槽内の**空気の圧力**（単位：MPa）

3. 第1項の送気を調節するための空気槽が前項各号に定める**予備空気槽**の基準に**適合するもの**であるとき、又は当該基準に適合する**予備ポンペ**を潜水業務従事者に**携行させる**ときは、第1項の規定にかかわらず、**予備空気槽**を設けることを**要しない**。

② 空気清浄装置、圧力計及び流量計【高圧則第9条】

1. 事業者は、潜水業務従事者に空気圧縮機により送気する場合には、送気する空気を清浄にするための装置のほか、潜水業務従事者が圧力調整器を使用するときは送気圧を計るための**圧力計**を、それ以外のときはその送気量を計るための**流量計**を設けなければならない。

ここまでの確認!! 一問一答

- 問1** 学習チェック 送気を調節するための空気槽は、潜水業務従事者ごとに設けなければならない。
- 問2** 学習チェック 予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度に相当する圧力以上でなければならない。
- 問3** 学習チェック 送気を調節するための空気槽が予備空気槽の内容積等の基準に適合するものであるときは、予備空気槽を設けることを要しない。
- 問4** 学習チェック 予備空気槽の内容積等の基準に適合する予備ポンペを潜水業務従事者に携行させるときは、予備空気槽を設けることを要しない。
- 問5** 学習チェック 潜水業務従事者が圧力調整器を使用するときは送気圧を計るための圧力計を、それ以外のときは送気量を計るための流量計を設けなければならない。

解答1 ○ 高圧則第8条（空気槽）第1項。

解答2 × 最高の潜水深度における圧力の**1.5倍以上**であること。高圧則第8条（空気槽）第2項第1号。

解答3 ○ 高圧則第8条（空気槽）第3項。

解答4 ○ 高圧則第8条（空気槽）第3項。

解答5 ○ 高圧則第9条（空気清浄装置、圧力計及び流量計）第1項。



過去問題で総仕上げ

問題【関係法令編】

1 潜水業務の設備

(テキスト⇒218P・解説/解答⇒270P)

学習チェック



問1 学習チェック

空気圧縮機による送気式潜水における空気槽に関し、法令上、誤っているものは次のうちどれか。[R6. 4]

- (1) 送気を調節するための空気槽は、潜水業務従事者ごとに設けなければならない。
- (2) 予備空気槽を設ける場合は、潜水業務従事者ごとに設けなければならない。
- (3) 予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度に相当する圧力以上でなければならない。
- (4) 送気を調節するための空気槽が予備空気槽の内容積等の基準に適合するものであるときは、予備空気槽を設けることを要しない。
- (5) 予備空気槽の内容積等の基準に適合する予備ポンペを潜水業務従事者に携行させるときは、予備空気槽を設けることを要しない。

問2 学習チェック

空気圧縮機により送気する場合の設備に関し、法令上、誤っているものは次のうちどれか。[R4. 4改]

- (1) 送気を調節するための空気槽は、潜水業務従事者ごとに設けなければならない。
- (2) 予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度に相当する圧力以上でなければならない。
- (3) 送気を調節するための空気槽が予備空気槽の内容積等の基準に適合するものであるときは、予備空気槽を設けることを要しない。
- (4) 予備空気槽の内容積等の基準に適合する予備ポンペを潜水業務従事者に携行させるときは、予備空気槽を設けることを要しない。
- (5) 潜水業務従事者が圧力調整器を使用するときは送気圧を計るための圧力計を、それ以外のときは送気量を計るための流量計を設けなければならない。

解答／解説【関係法令編】

1 潜水業務の設備 (テキスト⇒218P・問題⇒246P)

解説1 解答 (3)

- (1) 高压則第8条(空気槽)第1項。
- (2) 高压則第8条(空気槽)第1項。
- (3) 予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度における**圧力の1.5倍以上**であること。高压則第8条(空気槽)第2項第1号。
- (4) 高压則第8条(空気槽)第3項。
- (5) 高压則第8条(空気槽)第3項。

解説2 解答 (2)

- (1) 高压則第8条(空気槽)第1項。
- (2) 予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度における**圧力の1.5倍以上**であること。高压則第8条(空気槽)第2項第1号。
- (3) 高压則第8条(空気槽)第3項。
- (4) 高压則第8条(空気槽)第3項。
- (5) 高压則第9条(空気清浄装置、圧力計及び流量計)第1項。

解説3 解答 (1)

告示より、潜水業務作業者に圧力調整器を使用させる場合の計算式となる。

$$V = \frac{40 \times (0.03 \times \text{最高の潜水深度} + 0.4)}{\text{予備空気槽内の空気の圧力}}$$

解説4 解答 (3)

はじめに、予備空気槽内の空気圧力(P)を求める。なお、最高深度が40mであるため、ゲージ圧は0.4MPa(40m×0.1MPa)。

$$\begin{aligned} & \text{予備空気槽内の空気の圧力(ゲージ圧力)} \\ & = \text{最高深度40mにおける圧力(ゲージ圧力)} \times 1.5\text{倍} \\ & = 0.4\text{MPa} \times 1.5 = 0.6\text{MPa} \end{aligned}$$



覚えておこう

【関係法令編】

→ 潜水業務の設備

事業者は、潜水業務従事者に、空気圧縮機により送気するときは、当該空気圧縮機による送気を受ける業務従事者ごとに、送気を調節するための【**空気槽**】及び【**予備空気槽**】を設けなければならない

予備空気槽内の空気の圧力は、常時、最高の潜水深度における圧力の【**1.5**】倍以上であること

予備空気槽の内容積は、厚生労働大臣が定める方法により計算した値以上であること

潜水作業者に【 圧力調整器 】を使用させる場合（全面マスク等）	$V = \frac{【40】(0.03D + 0.4)}{P}$
前号に掲げる場合以外の場合（ヘルメット式）	$V = \frac{【60】(0.03D + 0.4)}{P}$

V：予備空気槽の内容積（単位：L）

D：最高の潜水【**深度**】（単位：m）

P：予備空気槽内の空気の【**圧力**】（単位：MPa）

送気を調節するための空気槽が予備空気槽の基準に適合するものであるとき、又は当該基準に適合する予備ポンペを業務従事者に【**携行させる**】ときは、【**予備空気槽**】を設けることを【**要しない**】

事業者は、潜水業務従事者に空気圧縮機により送気する場合には、送気する空気を清浄にするための装置のほか、潜水業務従事者が圧力調整器を使用するときは送気圧を計るための【**圧力計**】を、それ以外のときはその送気量を計るための【**流量計**】を設けなければならない

→ 安全衛生教育

事業者は、労働者を【**雇い入れた**】ときは、当該労働者に対し、原則として、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行うこと

労働者の作業内容を【**変更した**】ときは、当該労働者に対し、原則として、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行うこと

事業者は、危険又は有害な業務で、厚生労働省令で定めるものに労働者を【**つかせる**】ときは、原則として、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行うこと

あ

足ヒレ	95
圧外傷	160
圧縮空気	31
圧縮効率	79
圧力	8
圧力計	219
圧力調整器	94,218,228,231
アルゴン	21
アルミ合金	94
アルミボンベ	94
暗渠	37
安全弁	94

い

医師からの意見聴取	236
一次救命処置	171
一酸化炭素	22
一酸化炭素中毒	162
移動式コンプレッサー	79
命綱	30,37
インフレーター	84,96

う

ウエイト	37
ウェットスーツ	95,97,158
右心房	153
運動神経	156

え

鋭利な刃物	233
液化炭酸ガス	96

鉛錘	37
延髄	155

お

横隔膜	150
応需式	27
応需式潜水器	28
大潮	30
オープンヒルタイプ	95
オーラルインフレーター機能	96
溺れ	34

か

外呼吸	150
外耳道	161
回復体位	172
開放回路型スクーバ	28
拡散	21
下弦の月	30
ガス交換	150,153
ガス分圧の制限	226
かぶと台	98,233
過飽和	15
環境圧潜水	27
環境圧力	94
干潮	30
冠動脈	153

き

気圧	8
機関室	79
気胸	151,161
気体の拡散現象	21